

今朝も皆さまとともに主を礼拝できますことを感謝します。10月に入りました。八千代聖書教会に連なるお一人おひとりに続けて神さまからの祝福が豊かにありますようお祈りしています。

エペソ人への手紙を今日も読んでまいります。この手紙もいよいよ最後に差し掛かってきました。今日の箇所と合わせてあと4節です。前回までは悪魔の策略に対抗する武具として祈りが語られ、パウロの私のためにも祈ってくださいという願いが記されていました。6章18-20節。

あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。

私はこの福音のために、鎖につながれながらも使節の務めを果たしています。宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。

心に励ましを

鎖につながれながらも福音の使節として、人々に良き知らせを語っていたパウロ。語るべきことを大胆に語れるように祈ってほしいと彼は願っていました。そんな自分の様子を伝えるために、パウロはティキコという人物を遣わすと今日の箇所に記されています。21節。

私の様子や私が何をしているかを、あなたがたにも分かってもらうために、愛する兄弟、主にある忠実な奉仕者であるティキコがすべてを知らせます。

パウロはティキコという人物をエペソに送って、自分の様子を語らせます。自分が今どのような状況にあるのか、パウロたちの働きを通してどのように福音が広がっているか。具体的な必要や祈りの課題。どういったことにパウロは苦闘し祈りを必要としているか。そのようなことを伝えるため、パウロはティキコを遣わしたということでしょう。

ティキコはパウロと一緒に宣教の旅をした人物でした。使徒の働き20章にはこのティキコと言う名前が出てきます。パウロと一緒に伝道旅行をし、囚われているパウロのそばで一緒に福音の宣教のため仕えていたティキコ。そのティキコをこの手紙とともにパウロはエペソの地へと遣わしました。実はコロサイ人への手紙にも今日の箇所とほぼ同じことが書いてありますので、エペソだけでなくこの地方の教会を手紙を持ってティキコは回ったのだと思います。パウロはこのティキコのことを「愛する兄弟、主にある忠実な奉仕者」と語ります。自分のとても大切な同労者であるティキコのことを、パウロは送りエペソや近隣の教会に自分の様子を伝えようとしたということです。

そしてそのようにティキコを通して自分の様子を知ってもらうのは、この手紙を受け取るエペソの人々の励ましのためであるとパウロは語ります。22節。

ティキコをあなたがたのもとに遣わすのは、ほかでもなく、あなたがたが私たちの様子を知って、心に励ましを受けるためです。

パウロはほかでもなく、エペソの人々の励ましのためにティキコを遣わすのだと語ります。パウロがエペソの人々に自分の様子を伝えるのは、自分のために祈ってもらうということもあったでしょうが、それ以上に彼らを励ますためであった。励ましという言葉は慰めとも訳すことができます。心に励ましを受けるため。彼らの心が励まされ慰められるためにパウロはティキコをエペソに遣わしたのでした。

エペソの人々が励ましあるいは慰めを受けるとはどのようなことでしょうか？パウロは以前このように語っていました。同じエペソの3章1節。

こういうわけで、あなたがた異邦人のために、私パウロはキリスト・イエスの囚人となっています。

パウロは異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっていると語りました。異邦人とはエペソの人々も含めたユダヤ人以外の人ということです。異邦人に福音を語り、ユダヤ人も異邦人も変わりなく救いを受けることができると語った。そのことでパウロはユダヤ人に敵意を向けられ訴えられ捕らえられることになりました。異邦人への宣教、それがパウロが囚人となる原因となったのです。しかしパウロは続く箇所でこう語っていました。3章の13節。

ですから、私があなたがたのために苦難にあっていて、落胆することのないようお願いします。私が受けている苦難は、あなたがたの栄光なのです。

自分が囚人となっていることで落胆することのないように。あなたがた異邦人のために受けている苦しみは決して無駄なものではない。自分が苦しむことが異邦人の救い、栄光につながる。それをパウロは喜んでいるのだと告白し

ています。そのような励まし、慰めをパウロティキコを通して伝えようと思いました。パウロが囚人となっている状況を悲しまなくていい。自分たちのためにパウロ先生はそうってしまったのだと考える必要はない。むしろキリストのために受ける苦難を喜びとしているパウロの様子を知らせたい。それを通して慰めを得てほしい。心に励ましを受けて、ますますイエスさまに従い福音宣教に励む教会、一人ひとりとなってほしい。そのような願いを込めてパウロはティキコをエペソの教会に遣わしたのだということです。

人を通して与えられる励まし

そして今日の22節のギリシャ語を読んでみますと「心に励ましを受けるため」と訳されている言葉は「彼が心に励ましを与えるため」「彼が心を慰めるため」そんな風に訳すことができます。前の翻訳の新改訳聖書第三版では「また彼によって心に励ましを受けるためです。」と訳されていました。エペソの教会の人々の心に与えられる励ましは彼、すなわちティキコを通してのものであるということです。ティキコによって心に励ましを受ける。人を通して与えられる励まし、人によって注がれる慰めを今朝のみことばは私たちに教えているのです。

パウロはティキコを通して自分の様子や自分が何をしているかを伝えようと思いました。手紙でもそれを伝えることができたでしょうし、先ほど見たように実際パウロはエペソの人々に落胆しないよう、励ましをすでに語っていました。しかしパウロはティキコを通して、あなたがたを励ましたいんだと語り実際ティキコを遣わします。ティキコはただ手紙を届けるだけでなく、訪れた教会でパウロの様子や彼がどんなに喜びと感謝に満ちて福音宣教に励んでいるか、宣教の実がどのように結ばれているかを語ったのではないかと思います。手紙に書いてある言葉ももちろんエペソやその地域の教会の励ましになるものであったでしょう。しかしそれとともにティキコの口から伝えられるパウロの状況、そしてティキコという人物そのものが、その存在が教会の励ましになったのではないか。そんなことを想像するのです。

実際に会うことによって、交わりをもつことによって得られる慰め・励ましがある。互いの存在が心に励ましを与える。人々との交わり、人との関わりを通してでなければ得ることのできない励ましがある。そんなことを覚えさせられます。この手紙を書いたパウロ自身も人との交わりを大切に求め、またそれによって慰めや励ましを受けた人物でありました。パウロは別の手紙でこう記しています。第二テモテの4章9節と21節の前半。

あなたは、何とかして早く私のところに来てください。

何とかして冬になる前に来てください。

これはテモテという若い伝道者に向けられた手紙ですが、パウロは何とかして早く来てほしい、冬になる前に来てほしいと語っていました。この時はすでにパウロは最晩年であり天に召される直前であったと考えられますがパウロはテモテとの交わり、そこにある慰めや励ましを求めていたと言うことができるでしょう。人を通して与えられる励ましや慰めをパウロは知っていた。私たちの信仰の歩みは、互いの交わりによって支えられるものであることを彼自身よくわかっていた。そんなパウロだからこそ愛するティキコをわざわざエペソやその地方の教会へと遣わしたのだということです。

私たちもまた、人を通して慰めや励ましを受けることがあります。私たちキリスト者同士の交わりや宣教区・教団、遠くにいる方々との交わりを通して私たちは信仰の励ましを受け、悲しみ痛む心に慰めを受ける。そのようなことがある。私自身もそうやって人との出会いや交わり、関わりによって励ましや慰めを受けています。

今週は教団の研修会があります。教団の教師や信徒の方々が集まりともに学び交わり、祈り合う時間です。毎年研修会の時を通して同労の先生方や神学校時代の友人、教団の方々との交わりが与えられることは私にとっては年に一度の大切な機会であると思っています。互いの教会のこと、働きのことを分かち合って励まし合う。そしてそれによって励まし・慰めを受けていく。そんな良い研修会の時と今年もなるようにお祈りいただけると感謝です。

そして何よりも私たち教会の交わりが、互いに慰め励まし合うための大切なものである。そのことも今朝ともに覚えたいと思うのです。昨年制定した教会のビジョンにも「互いに祈り合い支え合い、ともに成長する教会」という項目を設けました。私たちの交わりが互いに支え合い励まし合い慰め合うものとなり、ともにイエスさまの恵みのうちに成長していく。そのようなものとなることを心から願っています。

先主日は礼拝後にシェアリングタイムがあり、またそうめんずの時もありました。コロナ禍でできなかった流しそうめんが久しぶりにできたこと。とても楽しい時間を過ごすことができたことを、感謝しています。互いに顔と顔を合わせて交わり、近況を分かち合い、楽しい時間を過ごしていく。そういうことが私たちの励まし、慰めになることを思います。私自身も皆さんとの交わりを通して多くの励ましや慰めを日々いただいています。この日曜日の礼拝もそうですし、祈祷会や昨日のお茶会、りとるらむ、家庭集会、あらゆる集会を通して皆さんと会い交わる時間が与

えられている。そのことに本当に感謝しています。時には個人的にお宅を訪ねたり病院にお見舞いに行かせていただいたりします。そう言う時にいつも思うことですが、あの人を励ましたい慰めたいと思って伺った私が、かえってその方との交わりやその人の存在そのものに慰められ励まされているなと思うわけです。それは聖書を通して与えられる慰めや励ましとはまた違った、イエスさまにある交わりのもつ特別な力であるなと思います。互いに支え合い励まし合い慰め合う交わりを私たちはこれからも続けていきたいと思っています。

ティキコをあなたがたのもとに遣わすのは、ほかでもなく、あなたがたが私たちの様子を知って、心に励ましを受けるためです。

私たちもまた、人からの励ましによって支えられていること。イエスさまの恵みに生かされている者同士が交わることを通して与えられる力があることを覚えていたいと思います。互いに励まし合い支え合い慰め合って、私たちは歩むものでありたい。そのような教会の交わりをこれからも続けさせていたしましょう。

そしてこの慰めや励ましを必要としている人たちがきっとこの教会の中に教会の周りに、私たちの周りに必ずいるはずです。私の存在もあなたの存在もまた、誰かを励まし慰めるものとなる。イエスさまにある恵みと平安、福音を携えて今週もここからそれぞれの地へと遣わされてまいりましょう。

お祈りをいたします。

「天のお父さま。みことばをありがとうございます。神さまあなたが、教会を通して私たちそれぞれの存在を通して励ましと慰めを与えてくださっていますことを感謝いたします。私たち八千代聖書教会が互いに愛し合い支え合い祈り合ってともに進むことができますよう、続けて祝福をお与えください。また私たちが、あなたの慰めや励ましを届けるために今週もまたそれぞれの地へと遣わされていくことができますように。慰めや励ましを必要としている人々に、あなたの愛と平安を伝え広げる私たちとどうかならせてください。みことばに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」